

2019.4.20 まちだ未来の会第21会学習会記録

こんなに使える鶴川図書館！

日 時：2019年4月20日（土） PM2：00～4：30

場 所：鶴川市民センター 2F 和室（1）

参加者：15名

開会あいさつ（藺田）

若干参加者は少ないようですが、お集まりいただきありがとうございます。小さな、しかし商店街にとってもなくてはならない図書館が無くなるようとしています。自分たちの町田を作るために頑張ってやっていきましょう。

司会進行（守谷）

鶴川図書館の person 費を除く年間経費は 600 万円程度である。一方で、必ずしも効果が確約されているわけでもない複数の大型開発事業が進められる中で、これをどうしても無くさなければならないのかと思う。周辺の自治会等を通じて現状をお知らせしているが、なかなか地域の方々に届いていない。そんな中で鶴川 4 丁目の方から頂いた手紙を紹介したい。（便箋 1 枚に書かれた文面を読み上げる。「先回の学習会に出席。その後要望書の署名を 130 筆集めた。図書館廃止のことを市民に知らせずに進めている市のやり方にみんな、特に子育て中の 40 代母親たちはみんな怒っている。そのことを行政にぜひ伝えてほしい」といった内容）。

今回、議員さんにも参加を呼び掛けたが、明日の統一地方選の応援に出かけているということで、おひとり田中議員が参加されている。今日は地域の活動を盛り上げるためのアイデアも話し合っていきたい。

I. 現在進めている取り組みについて（鈴木、議会の場面のスライドを使用して説明）

1. 3月議会報告

（1）町田市議会 3月定例会から

a. 文教社会常任委員会（3月13日）の行政報告

①「生涯学習推進計画 2019-2023」の策定について

⇒議員からの質問はなかった。

②「町田市立図書館のあり方見直し方針」の策定について

⇒田中美穂議員とわたべ真美議員から質問があった（詳細は下の「質疑概要」参照）。

③「町田市民文学館のあり方見直し方針」の策定について

⇒議員からの質問はなかった。

<②の質疑概要>

・田中議員（共産党）

Q：市民の声を聞きつつも市民の声に答えているとは言えない。どのように答えているのか？

A（副館長）：2017年度の市民意識調査やワークショップでの意見を踏まえ、地域にどのようなサービスが必要とされているかを考えながら進めている。

Q：そこにあることが市民のニーズに応えることになる。また、子どもの読書活動の推進を目標に掲げているのなら、身近になくてはならない。URによる建替えが前提か？それまでは存続か？

A（館長）：あまりにも決まらない或いは建て替えが中止になった場合は、建替えとは切り離して鶴川図書館のことを決めなくてはならない。

Q：図書館と一緒に発展してきた地元の声を聞いてほしい。

・わたべ議員（まちだ市民クラブ）

Q：団地再生が重要課題である中での結論か？

A（館長）：次の世代に負担を残してはいけないという観点からこのような結論に至った。

Q：さまざまな市民の小さな意見から大きな観点が成り立っているのですが、大きな観点というのがどのような観点か悩むところだ。

b. 本会議（3/15～3/22）

・熊沢議員（自民党・3/19）

Q：図書館のあり方について、英語教育のために英語の本を増やしてほしい。居場所としての図書館について、出来るだけ会議室などを開放してほしい。

A（生涯学習部長）：忠生の多目的室は夏休み、試験前など、予定がなければ開放。中央館も会議室の開放を検討する。移動図書館の巡回ルートを2019年度に検討、英語の町田を目指して4000冊の外国語図書を所蔵、英語によるおはなし会実施。今後CD、DVD付のものを収集予定。

・殿村議員（共産党・3/20）

Q：「図書館のあり方見直し方針」について、①生涯学習審議会での審議内容について、②「図書館のあり方見直し方針」の内容について、③2つの請願採択の結果をどのように「あり方見直し方針」に反映させたのか、④採択された請願の趣旨と市長への要望（鶴川図書館）に沿って図書館を存続させるべきかどうか、⑤「町田市5ヵ年計画17-21」、「町田市公共施設再編計画」は抜本的に見直し、「図書館のあり方」を再検討すべきと考えるが、どうか。

A（部長）：③の請願の結果をどう反映させたのかという質問に対し、地域住民の利便性を考え、代替機能、地域のコミュニティ支援を考えている。

Q：鶴川図書館と鶴川駅前図書館、さるびあ図書館と中央図書館をそれぞれ「集約する」ということは、一方を無くすということか？

A（部長）：2つを1つにすることだ。

Q：市長にこの請願について議会の中で意見を求めたら、「しっかりと重く受け止める」と答弁した。それなのに請願の趣旨が反映されていないのは答弁に反する。

A（部長）：請願が採択されたということで図書館のサービスの必要性は認識しているが、公共施設再編については全ての施設を維持するわけにはいかない。請願者が述べていた代替機能等は提供していく必要性を認識。意識調査も考慮したうえで定めた。

Q：多摩26市の中で、一人当たりの蔵書数がどうなっているか？

A（部長）：いま手元に資料がない。のちほど。

Q：26位。最低。市は、全国の同規模の自治体と比較する場合、東京や町田に住んでいる人にとって比較対象は多摩地域。8館から6館になったら、さらに下がる。地域の重複を言うが、やっと6館から8館になったのに突然8館から6館に減らすことになった。第4期生涯学習審議会の委員はもろ手を挙げて賛成しているどころか、反対している委員も少なからずいた。たった3回、3ヶ月でこの重要な内容の答申を出させ、教育委員会に出している。「重く受け止めている」というのはうそではないか？

A（部長）：前期を合わせれば、15回でしっかり審議してもらった。

Q：それはおかしい。なぜ審議委員から異論が出るのか。図書館協議会の意見もその場で報告されたが、もっと充実すべきというものだった。答申の中には「鶴川図書館」、「さるびあ図書館」という言葉は入っていない。書けなかったのだ。そこに市民の声が入っている。最後に、鶴川図書館を利用している4年生の子が書いた文章を紹介したい（ずっと続けている「コツコツ読書」を中断したくない。鶴川図書館を無くさないでほしい、という小学生のメッセージを読み上げる）。市長の

「しっかりと重く受けとめる」の言葉を忘れるわけにはいかない。しっかりと踏まえて、鶴川図書館とさるびあ図書館の存続を強く求める。

・大西議員（保守の会・3/22）

Q：図書館職員は、一般事務職として採用されながら、他の部署に比べて圧倒的に長期勤務者が多い。その効用と弊害について。あるとすれば弊害はどのように克服できるか。

A（部長）：長い経験を活かして司書資格を持つ嘱託員を指導するなど、円滑な図書館運営に役立っている。弊害としては、広い視野などを身に付けられない可能性がある。今後は、他の職場と同様の移動サイクルにし、長期在籍者に頼らない運営を行っていく。

<議会報告についての意見>

（菌田）前期の生涯学習審議会の委員長を務めていた。当時2年かけて出した昨年3月の答申は「図書館を減らしてはいけない」という内容だった。その次の審議会答申は、市の施設再編計画を前提として始まり、たった3回の審議で前期の答申とは逆の内容となっている。それなのに前期と今回の審議を合わせて十分に審議したなどというまやかしは、絶対に許せない。そのことを強く言っておきたい。

（守谷）いま図書館の職員は、常勤職員が66人（うち10年以上は20人）、嘱託職員が101人である。図書館の仕事は、長い経験の蓄積があってはじめて可能であり、特に常勤職員は嘱託職員には認められていないような判断業務を担っている。議員が長期勤務者を問題視する意図は分からないが、部長が今後一般の異動サイクルに合わせて長期勤務者に頼らない運営を行う、と答弁していることとあわせて、図書館業務に対する認識の浅さ、不見識さに唖然とする。

2. 市長への要望書署名活動と「鶴川図書館大好き」絵とメッセージ（商店会 富岡）

団地の節分のイベントで募集した絵とメッセージを店の前に展示し、見た人から「廃止されるなんて知らなかった！」と新たに署名872筆寄せられた。絵とメッセージ募集を引き続き行い、署名活動もやっていく方向で検討する。5月にバザーがあり、鶴川2中吹奏楽部演奏もあるので、アピールの仕方など提案してほしい。

URとの話し合いで、商店街の建て替えは正式に断った。理由は、現在の22店舗、最低それだはないと団地の商店街の拠点として機能しないということである。5軒の来年3月までの定期借家の店舗がその後継続できないこと、建替えに合わせてやめる店があればその後新しい店を作らないなど、URの方針は受け入れられないものである。この先10年後、20年後を考え、前向きに高齢者向けや若者向けの施設をつくり、コミュニティの中核としていく夢を見ていたが、これ以上前には進めない。建築家2名から耐震性で建て替えよりも減築（4,5階を壊して3階建てにするなど）のほうが安いと聞いている。

（守谷）市は建て替えがなくなっても、鶴川図書館を無くす方針は変わらないというスタンス。商店街、図書館をともに活性化することを一緒に考えたい。

3. 「市長への手紙」その後

○手紙を送ったら、突然中央図書館の人から電話があり、出したきっかけを聞かれた。「地域の図書館がなくなると聞いて」と答えたが、逆に「図書館の方はこれでいいんですか？」と聞くと、「私は公共施設の再編は仕方ないものと思う」との答え。図書館を運営している人がそう言うのに驚いた。手紙を本当に市長が読むのか疑問。

○自治会の人で手紙を送った人もやはり電話があったようだ。

☆鶴川図書館の毎日の様子を紹介した文章が読み上げられた。

「開館を待って、図書館を日常的に利用される方、駐車場を利用して、返却しに来られる方、保育園など団体で利用される方、レファレンスサービス（調べもの・探し物の手伝い）を受けに来る方、

好きな本を読みに来る小学生、課題の本を探しに来る学生さん、親子で本を楽しみに来る方、など様々な利用者さんがいらっしゃいます。返却機と貸出機が1台ずつの小さい図書館なので、混みあって列ができる時は、カウンターでも貸出・返却を受けています。」

(守谷) 私が図書館に勤務した頃に図書館のコンピュータ化が始まった。当時はカード目録で、蔵書の検索も簡単ではなかった。図書館にとってコンピュータの活用は不可欠である。ただし、自動貸し出し機の導入については、当時から議論があった。市民の利便性というより、カウンターの職員削減が主な目的で、リクエスト本を利用者自身が貸出処理して借りていく方式も同じ。結果として、職員による人的サービスの機会が激減した。小さな地域図書館にこそ、図書館の原点がいまも息づいている。

II. みんなで知恵を絞って、鶴川図書館を盛り上げるイベントを考えよう。

二つのテーブルに分かれてブレインストーミングを行う。

A のテーブルの発表

- * 鶴川は浪江度が創設した私立図書館 50 年の歴史があり、子どもたちに伝えたい。
展示とレクをセットに。
- * 酒屋の「まさるや」さんは全国的にも有名。夏休みに日本酒の蒔蓄を聞き試飲会などできないか
図書館に関連図書を紹介してもらう。
- * 乗馬用品を売る店や、若者向けにいいコーヒー店もある。図書館とタイアップして。
- * 古本市。図書館の再利用本を売って新しい本を買う資金に。
- * 5月26日のバザーになにか。テントを借りて出店できる。
- * 最近鶴川団地に引っ越してきた若い人が、「団地暮らし」をインスタグラムで紹介している。
- * 鶴川団地のHPもあり、今年の夏まつりは5丁目が担当。

B のテーブルの発表

- * 絵とメッセージの展示と署名をどこかでも。
街角ギャラリー、鶴川の横浜銀行、ポプリホール交流スペース(「三水スマイル*」の日はパネル無料か?) *三水スマイル：鶴川地区協議会が毎月第三水曜日に開催しているイベント
- * 「鶴川図書館の一日」を映像にしてユーチューブに投稿。
子どもたちのエキストラ出演を募る。鶴2中の図書部の生徒がシナリオ担当できるかも。こどもたちを巻き込みたい。
- * 地域のコミュニティーの先取りした形を示す。
- * 夏休みの自由研究
ケーキ店や酒店、プラスハート(コーヒー店)などと、図書館が協力。講習会や図書館の本で調べ、ケーキなら作ってみるワークショップなど。
- * 夏まつり(夕方)：盆踊りやエイサーがあるが、本を使ったイベント、ビブリオバトル?
* 実行委員会を作り、中高生にも楽しく作っていく過程を味わってほしい。

III. まとめ (菌田)

イベントはスケジュールを立て、5月の学習会でまた話し合いたい。

日程の近い5月26日は古本市、商店街と図書館の協同イベントや、自由研究のアピール(図書館とも話し合い)など。絵とメッセージの展示や、「鶴川図書館の一日」の映像化についても詰め、運動体の名称も考えてはどうか。

次回予告

5月19日(日) PM2:00より。鶴川市民センター 第2会議室にて。